

基本政策Ⅱ 学ぶ意欲を育て、「生きる力」を伸ばす

政策 目標

子どもたちの学ぶ意欲を高め、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな心身」をバランスよく育み、将来の予測が難しい社会を生き抜くために必要な「生きる力」を確実に身につけることをめざします。

主な課題

- ①子どもたちが自ら学び、課題を見つけ、主体的に判断し、課題解決のために他者と協力する資質や能力を伸ばしていくため、学校、地域、家庭が連携した取組を進め、「確かな学力」を育成する必要があります。また、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていくことが求められています。
- ②道徳教育の一環として、「心のバリアフリー」に関する理解を深めるための指導等を継続していくとともに、「かわさきパラムーブメント」がめざす「誰もが自分らしく暮らし、自己実現をめざせる地域づくり」の実現に向け、多様性を尊重する社会の担い手を育む教育を、引き続き、計画的・系統的に行っていく必要があります。
- ③現代的な健康課題等に対応し、子どもの心身の健康の保持・増進を図るとともに、児童生徒の健全な身体を育むため、小中9年間を通じた体系的・計画的な食育を引き続き推進していく必要があります。
- ④「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現のため、様々な形で蓄積されていくスタディ・ログを効果的に活用していくことが求められています。また、GIGAスクール構想で整備されたICT環境を活かして、自宅等でICT端末による学習を継続することで、子どもたちの学習を保障することが求められています。
- ⑤各学校の特色を活かした多様な学習ニーズに対応する教育活動を実施し、魅力ある市立高等学校づくりに向けた取組を推進していく必要があります。

主な取組成果

- ①市学習状況調査について、令和7年4月に市立小中学校及び市立聾学校の6学年（小4～中3）62,986人に実施しました。児童生徒・保護者に対しては、個人票を7月に配布し、学習状況を伝え、GIGA端末との連携も含め学習改善に活用できるよう支援しました。また、全国学力・学習状況調査は、調査結果を分析、研究し、明らかとなった課題と課題に対する授業改善の手立てを担当者説明会などで共有し、各学校の取組を支援しました。
- ②人権尊重教育研究推進校3校、実践推進校2校を定め、学校での人権尊重教育推進の取組を継続したことで、具体的な人権尊重の視点に立った指導や支援の実践を通して人権尊重の学校づくりを進めることができました。研修については、オンラインや対面など様々な形態等で実施し、4,003人が参加しました。また、各学校の多文化共生教育の充実に向けた情報交換の実施については、「学校でできる多文化ふれあい交流会」をオンラインで開催し、各学校の取組状況についての情報交換を行いました。
- ③川崎らしい特色ある「健康給食」の推進については、「かわさきそだち」の野菜を使用した献立を提供するなど、「健康給食」をコンセプトとした学校給食を推進しました。また、小中9年間にわたる体系的・計画的な食育の推進について、栄養教諭を中核としたネットワークを活性化し、中学校区を拠点として小中学校をグループ化し、小・中学校、給食センター間の連携を図りました。さらに、大豆ミートを使用した給食献立のほか、市制100周年のレガシーとして、市内産多摩川梨を使った「『かわさきそだち』のなしゼリー」の提供など学校給食におけるSDGsの取組を進めるとともに、能登の食材を使用し復興を応援する取組等も実施しました。
- ④かわさきGIGAスクール構想ステップ3の「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した授業改善に向け、推進協力校17校に複数回指導主事を派遣して研究推進の支援を行い、研究の成果は授業公開等を通して全市に横展開しました。教育委員会事務局でデータ利活用調整会議を定期的に行い、新規に5つのダッシュボードを本格稼働するとともに、データを活用した支援の実施に向けてGIGAスクール構想を推進する教師（GSL）に研修を行い、通信環境の回線速度強化や通信環境のアセスメントを行いました。
- ⑤令和6年度に実施した、「市立高等学校改革推進計画第2次計画」の検証であげられた課題や、市立高等学校を取り巻く環境の変化等を踏まえ、本市の地域特性を生かして育成すべき人材像や、市立高等学校が今後果たすべき役割等について検討を進めるとともに、地域等と連携した授業を全校で取り組みました。令和7年度は、川崎高等学校が川崎国際環境技術展に参加し、化学の学習内容と実社会の結びつきについて、出展企業から直接教わる取組を新たに実施しました。

教育改革推進会議における意見内容

- ①参考指標において、授業の理解度・好感度が徐々に下がっているように見えます。学校の役割として「学力を伸ばす」というのも大切であると認識していますが、第3次教育プランや、次期学習指導要領の改訂のタイミングを迎えるに当たり、改めて子どもたちが「わかった・楽しい」と思えるカリキュラム編成や授業展開について検討する必要があると感じています。
- ④参考指標では、授業の理解度・好感度が過去と比較して低下しているように見えます。GIGA端末の活用を進めてきた中で、なぜこうした傾向が見られるのか、要因を確認する必要があると思います。

今後の取組の方向性

- ①市学習状況調査について、経年比較等により一人ひとりの学習状況を把握し、その結果をGIGA端末と連携することで、各学校の授業改善や児童生徒の学習改善につなげていきます。また、習熟の程度に応じた指導等とも関連させながら、児童生徒がより「わかる」を実感できる授業づくりを進め、個別最適な学びの実現に向けて計画的に取り組めます。
- ②人権尊重教育推進会議や研究推進校・実践推進校への支援を通じて、各学校の実態に応じた人権尊重教育を推進します。また、子どもの権利学習派遣事業や教職員・PTA研修の充実、GIGA端末を活用した資料共有、道徳教育との関連付け等を進め、学校における人権尊重教育の総合的な充実を図ります。多文化共生ふれあい事業については、文化体験のバリエーションを拡充しながら継続します。また、各学校の多文化共生教育の充実に向けた実践事例報告を含めた情報交換会については、より効果的な学校間の情報共有が図れるよう、手法を検討していくことで、多文化共生社会の推進に取り組んでいきます。
- ③川崎らしい特色ある「健康給食」の推進について、児童生徒の健全な身体の発達に資するよう継続して推進します。また、小学校及び特別支援学校の給食の充実に向け、老朽機器の計画的な更新や、学校給食調理員の退職動向等を踏まえた給食調理業務の委託化など、必要な取組を継続して進めていきます。
- ④かわさきGIGAスクール構想の推進に向け、GSL研修や推進協力校への支援、国の生成AIパイロット校事業C区分（旧リーディングDXスクール事業）の活用を進めます。また、学校現場の実態に応じたGIGA端末や通信環境の整備を進めるとともに、通信環境アセスメントを継続して実施します。
- ⑤生徒から選ばれる特色ある高校づくりや、学校配置・規模の最適化に向けた検討を進めるとともに、高等専門学校の設立も含め、高度な産業が集積する本市の地域特性を踏まえた次代の産業を担う人材を育成するための取組を推進し、令和8年度末までに市立高等学校の改革等の推進に向けた新たな計画を策定します。

参考指標		基本図							
指標名	指標の説明		実績値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	目標値(R7年度)	
授業の理解度	「授業がわかる、どちらかといえばわかる」と回答した児童生徒の割合 【出典：川崎市学習状況調査】 小5：国語、算数、理科、社会の平均 中2：国語、数学、理科、社会、英語の平均	小5	90.1% (R3(2021)年度)	89.3%	84.6%	85.3%	85.3%	94.0% 以上	
		中2	79.6% (R3(2021)年度)	79.0%	66.8%	66.0%	66.2%	82.0% 以上	
授業の好感度	「学習がすきだ、どちらかといえばすき」と回答した児童生徒の割合 【出典：川崎市学習状況調査】 小5：国語、算数、理科、社会、総合の平均 中2：国語、数学、理科、社会、英語の平均	小5	75.4% (R3(2021)年度)	73.4%	70.1%	68.1%	68.2%	81.0% 以上	
		中2	64.8% (R3(2021)年度)	61.8%	59.5%	58.4%	58.8%	67.0% 以上	
授業の有用度	「授業で学んだことが、生活の中で役に立っていると思う、どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合(～令和4年度) 「授業で学んだことは、将来、社会に出たときに、役に立つ、どちらかといえば役に立つ」と回答した児童生徒の割合(令和5年度～) 【出典：川崎市学習状況調査】	小5	92.4% (R3(2021)年度)	91.7%	91.5%	93.4%	92.6%	97.0% 以上	
		中2	81.0% (R3(2021)年度)	79.8%	83.4%	85.2%	86.7%	85.0% 以上	
英語によるコミュニケーションへの積極性	「道で外国人に英語で話しかけられたとき、何とか英語で話そうとする」と回答した生徒の割合 【出典：川崎市学習状況調査】	中2	81.8% (R3(2021)年度)	84.5%	80.2%	79.2%	81.7%	85.0% 以上	
規範意識	「人が困っているときは、進んで助けている、どちらかといえば助けている」と回答した児童生徒の割合 【出典：全国学力・学習状況調査】	小6	90.5% (R3(2021)年度)	91.5%	93.5%	93.5%	95.2%	91.0% 以上	
		中3	90.4% (R3(2021)年度)	89.7%	90.5%	92.1%	92.6%	91.0% 以上	
子どもの体力の状況	体力テストの結果(神奈川県の実績値(体力合計点)を100とした際の本市の割合) 【出典：全国体力・運動能力、運動習慣等調査】	小5(男)	99.9% (R3(2021)年度)	100.37%	100.89%	99.50%	99.70%	102% 以上	
		小5(女)	99.8% (R3(2021)年度)	99.98%	100.00%	100.02%	99.50%	102% 以上	
		中2(男)	94.5% (R3(2021)年度)	95.76%	96.12%	98.67%	98.43%	100% 以上	
		中2(女)	96.3% (R3(2021)年度)	97.01%	98.15%	100.84%	98.36%	100% 以上	
学校給食の残食率(小学校) 【第3期から設定】	残食率の高さや栄養の観点から重点5項目とする品目の残食率 【出典：川崎市教育委員会調べ】 小学校(白米、変わり飯、卵類、豆製品、藻類)	白米	6.1% (R2(2020)年度)	5.28%	6.02%	6.98%	6.73%	5.46% 以下	
		変わり飯	7.0% (R2(2020)年度)	5.37%	8.29%	8.19%	6.62%	5.41% 以下	
		卵類	7.3% (R2(2020)年度)	6.66%	5.76%	7.53%	7.53%	4.50% 以下	
		豆製品	7.0% (R2(2020)年度)	6.43%	7.63%	7.44%	7.29%	4.95% 以下	
		藻類	7.6% (R2(2020)年度)	6.16%	6.38%	8.05%	7.86%	5.04% 以下	
学校給食の残食率(中学校) 【第3期から設定】	残食率の高さや栄養の観点から重点5項目とする品目の残食率 【出典：川崎市教育委員会調べ】 中学校(白米、変わり飯、豆類、野菜類、藻類)	白米	21.2% (R2(2020)年度)	18.68%	16.93%	14.72%	14.58%	12.3% 以下	
		変わり飯	13.3% (R2(2020)年度)	12.40%	14.52%	11.11%	11.66%	9.24% 以下	
		豆類	15.1% (R2(2020)年度)	15.44%	13.93%	11.82%	13.15%	11.29% 以下	
		野菜類	15.9% (R2(2020)年度)	14.03%	12.92%	11.74%	12.52%	10.5% 以下	
		藻類	17.2% (R2(2020)年度)	16.45%	14.74%	13.6%	13.28%	11.08% 以下	